第266回

稲 美 町 定 例 会

町長所信表明要旨

令和4年6月

稲 美 町

本日、第266回稲美町定例会の開催をお願い申し上げましたところ、ご健勝にて 議員各位のご出席を賜り、厚くお礼申し上げます。

この度の町長選挙におきまして、多くのご支持・ご支援を賜り、大役を務めさせていただくこととなり、大変に身の引き締まる思いとともに、全身全霊で町政運営に取り組んでまいる所存でございます。

町長就任にあたり、私の所信の一端を述べさせていただきます。

私は、この稲美町に生まれ育ち、49年間暮らしてまいりました。この稲美町が大 好きです。

大学卒業後も、地元に残って稲美町の皆様の役に立ちたい、そういった思いから稲 美町役場に就職をし、27年間、勤務をしてまいりました。

そして、仕事や地域活動を通じて、多くの方と出会いました。

子どもの安全を守る交通安全や防犯ボランティアの皆様、火災現場で身の危険を顧みず、消火活動にあたる消防団の皆様、福祉の現場では献身的に介護をされる介護職の皆様や地域の高齢者の見守りを行う民生委員の皆様、自治会の運営に奔走される自治会長の皆様、稲美町の農業を支える農家や集落営農の皆様、そして地域経済をしっかりと支える地元の商工業者の皆様。

皆様の日々の活動やお気持ちに触れる中で、稲美町の良さをより多く知ることができました。

そして、その一方で、様々な課題も見えてまいりました。

私はこの2か月間、稲美町内をあらためて隅々まで回り、住民の皆様のお声を聞いてまいりました。

小学生の子どもたちと一緒に登校もしてまいりました。小学1年生が、危険な道路 を横断したり、通勤の車が行き交う危険な道を歩いていました。

障がいのあるお子さんの親御さんのお話も聞きました。「この子の将来が心配なんです。この子が笑顔で働ける場所、そして安心して住める場所が必要なんです。」

まだまだ、手が行き届いていない、まだまだ声が届いていない問題がたくさんあります。

今、我が国を取り巻く情勢は、長引くコロナ禍による影響、そしてウクライナ侵攻 による社会不安、何より少子高齢化による人口減少など、先行きの見えない状況と なっております。

そして、我々の住むこの稲美町も人口減少をはじめ、多くの課題があります。

そんな時代だからこそ、若い世代の感覚で若い世代の責任で、これまでの良いもの を継承しつつ、果敢に挑戦をしてまいります。

そのために私は、「稲美町の未来を築く4つの柱」を掲げてまいります。

稲美町の未来を築く4つの柱

- 1つ目の柱 オンリーワンの人づくり、オンリーワンの町づくり
- 2つ目の柱 日本一優しさに包まれる町 稲美
- 3つ目の柱 日本一働きがいのある町 稲美
- 4つ目の柱 住みやすさナンバーワンの町 稲美

まず、1つ目の柱 オンリーワンの人づくり、オンリーワンの町づくり です。

何といっても、町づくりは人づくりからです。そして、人は、家庭、学校、地域が 一体となって育てていくものだと私は信じています。

不安な時代だからこそ、自分の意見をしっかりもって行動する人づくり、若い世代が町づくりや政治に興味が持てる仕組みを作ります。そして将来、稲美町からオリンピック選手やノーベル賞の受賞者が出ることを期待しています。

そして、キャンプ場やニュースポーツができる場所、自然の中で音楽フェスができるような場所、いいね、があふれる町づくりを進めてまいります。

稲美町の自慢の美味しい学校給食が気軽に食べられるお店。きっと稲美町の名物に なると思います。

そして、稲美町で生まれ育った子どもたちが、大人になって、稲美町に住みたいと 思える町、稲美町にかえってきたいと思える町を作ってまいります。

2つ目の柱 日本一優しさに包まれる町 稲美 を築いてまいります。

稲美町は、井上町長の時代から大変に福祉に手厚い町です。そのおかげで、今、医療や介護サービスがとても充実をしています。

また、稲美町ではいきいきサロンをはじめ介護予防事業にもしっかりと取り組んでいます。高齢者の皆様は毎朝、ラジオ体操やグラウンドゴルフに取り組んでおられます。今後も、高齢者の皆様が安心して暮らせる町を築いてまいります。

そして、今、国の福祉制度も地域共生社会の実現に向け、大きく変わろうとしています。

子どもから、お母さん、お父さんも、おじいちゃん、おばあちゃんも、障がいのある人も、誰一人取り残さない、誰もがほっとする居場所を作ってまいります。

また、新たな課題も出てきています。

なかなか学校になじむことができずに、学ぶ機会を失っているお子さんが多くいます。地域の中に公設民営の子育てスペースや町内に子どもの学びをしっかりと確保する場所を作ってまいります。

3つ目の柱 日本一働きがいのある町 稲美 を築いてまいります。

今、日本の農業は担い手不足という課題を有しています。

稲美町は、温暖な気候、整備された農地、身近にある販売先、本当に農業がやりや すい環境があります。 今後、ますます食糧の重要性が高まってくる中で、ピンチをチャンスに変えて、稲 美町の農業の再生を進めてまいります。農業で生計が立てられるようにしてまいりま す。

また商工業の面でも、ここ稲美町は臨海部に近く、物流の面からも便利で、しかも 災害が少なく平坦な地勢は、大きな可能性を有しています。

稲美町にある素晴らしい技術を持った会社、地場産業がしっかりと稲美町を拠点に もっともっと成長できるよう、市街化調整区域の規制緩和で工場や住宅が建てられる ようにしてまいります。

また、町北東部においては、工業用地の確保に合わせ、道路等の施設整備を検討してまいります。

広域幹線道路の建設を推進するとともに、アクセス道路やインターチェンジの誘致 も進めてまいります。

そして最後、4つ目の柱 住みやすさナンバーワンの町 稲美 を築いてまいります。

私はこの2か月間、自転車で町内を隅々まで走ってまいりました。凸凹の道路や、 車の通りにくい狭い道があります。皆様がお住まいの自治会内の道路の総点検を進め てまいります。

子どもたちの安全を守るために、防犯灯や防犯カメラの増設を進めてまいります。

そして何より、歩道や安全柵の設置を、子どもたちの通学路の安全対策を進め、子 どもたちの命をしっかりと守ってまいります。

皆様の生活が便利になるよう、必ず、母里地区に商業施設を作ってまいります。デマンド型乗り合いタクシー「あいのりいなみ」も、もっと便利にしてまいります。

皆様もご承知のとおり、私たちの住む稲美町は、ため池と田園風景が織り成す四季 折々の自然と調和した住環境と、阪神間をはじめ、周辺地域にも通勤しやすい大変住 みやすい町でございます。

ぜひ、町外の皆様にも稲美町を訪れていただき、稲美町の良さを知っていただくと ともに、稲美町に住んでいただきたいと思います。 稲美町は、先人が協力をしあい、そして苦労をして作り上げ、そして、時代とともに人口が増加していく中で、また人と人が協力しあいながら発展してまいりました。 今後とも、自助、共助、公助の精神とともに住民協働による町づくりを進めてまいりました。 りたいと思います。

そのためにも、住民の皆様や企業の皆様、何より未来を担う子どもたちの声に耳を 傾け、皆様とともに稲美町の未来を築いてまいります。

最後に、どうか、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げ、 以上、私の所信表明とさせていただきます。